



武蔵野

学校だより NO. 10
令和 6年 2月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 大河原 博



武蔵野小 HP

お互い様

校長 大河原 博

休み時間、教室を見廻っていると教室で絵を描いていた子供が、ついうっかり自分の色鉛筆ケースを床に落としてしまい、色鉛筆が散乱している場面に出くわしました。そのとき、教室にいた何人かの子供たちがさっと集まり、落ちた色鉛筆を拾い集め、次々に元のケースに戻していきました。学校ではよくある何気ない光景ですが、なんてすてきな光景なののでしょうか。拾ってもらった子供も拾った子供たちも言葉少なに笑顔で力を合わせていました。

街中でも、駐輪場で倒してしまった自転車を皆で直したり、電車内で誰かが落としてしまった荷物を周りの人が拾ってあげたり、心温まる場面が多くあります。

一方、そうではない場合もあります。乗り物で赤ちゃんが泣いているのを露骨に嫌がる人や、バスの降車で戸惑っているお年寄りに「早くしろよ」と心無い声を掛けるギスギスした人に出会うと空しい気持ちになります。残念ながら、最近では後者の場面が多くなったと感じられるのは、私だけでしょうか。

日常でよく使われる言葉に「**お互い様**」という言葉があります。

この言葉は、助け合い、支え合いの精神から発したもので、いい意味で使われます。周囲がかける慰めの言葉で「お互い様だから気にしないでいいですよ」という、最近、社会が忘れかけている寛容の精神だと思います。

ある企業が2010年に東アジアの5都市（東京・ソウル・北京・上海・台北）でとった調査に「子供の将来に対する期待」という項目があります。全体で1位だったのは「**自分の家族を大切にする人**」です。4つの都市では全て1位でした。東京も3位ではありますが69.7%で期待度としては高く、他都市とあまり変わりません。

日本特有の結果も表れています。東京で1位の「**友達を大切にする**」は、和を尊ぶ日本社会ならではのものです。そして、それを支える手段の一つとして「**他人に迷惑を掛けない**」が2位に躍り出ています。この二項目は他都市に比較して圧倒的に高くなっています。

人は誰でも社会生活の中で、知らず知らずのうちに、他人に迷惑をかけてしまうこともあります。この心がけはとても大切なことです。

一方、他の調査で次のようなことを言われているのを読んだことがあります。

日本の親は、「他人に迷惑をかけてはいけません」と言いますが、インドの親は「**あなたも迷惑をかけているのだから、他人からの迷惑も許しましょう**」と子供たちに話をするそうです。人口が多く、多文化が共生するインドならではのとも言えますが、このような考え方は、案外、的を射ているようにも思います。「友だちを大切にする子になってほしい」という期待感も日本では強く、日本人は小さい頃から、そのような教育を受けて育ちます。コロナ禍での日本では、他人のささいな過ちを許さず、その他大勢の人たちと同じようにさせようとする「〇〇警察」という言葉がよく話題になりました。「他人に迷惑を掛けない」のは、日本人の誇らしい美德です。ただ、これから人口が減少し、多国籍化や多文化共生が進む日本では、『他人からの迷惑も許す』『迷惑はお互い様』といった寛容な気持ちも、もち合わせていくことが大切だと思います。

他人を思いやり迷惑にならない心掛けを忘れずに皆が過ごし、さらにそれでも失敗してしまったときには「お互い様」と許し合える武蔵野小の子供たちであってほしいと思います。

子供の将来に対する期待 (%)

